

# 「赤い毛糸のマーク」に関する調査報告書

日本ゴルフ学会 坂本公紀(日本の小さな図書館ゴルフの歴史「公樹庵」)、  
蝦名謙一(八戸工業高等専門学校)、池上久子(南山大学名誉教授)

## 【はじめに】

1935(昭和10)年頃から、グリーン上でボールを拾い上げた際の印に、数センチの長さに切った「赤い毛糸」を使用していました。この毛糸はゴルフ場にも置いてあったようですが、自宅から持参することもあったようです。この「赤い毛糸」を使用したマークは、1976(昭和51)年頃まで全国のゴルフ場で使われていたようです。しかし、「赤い毛糸のマーク」の記録は、ゴルフ倶楽部史やゴルフ雑誌などに僅かな記事が記載されているだけで、当時のゴルファーが「使用した」という記憶だけが残っています。

「赤い毛糸のマーク」に関する公的な資料は残念ながら残されておらず先行研究もありません。僅かに文献資料で「赤い毛糸のマーク」(毛糸屑)に関する史料がありますが、「毛糸」をマークとした発案者も不詳でその意図も不明です。日本ゴルフ連盟は1934(昭和9)年に邦文の「ゴルフ競技規則」を制定し、規則の中でグリーン上の球は拾い上げる事も置き直す事も可能としました。そして拾い上げる際には正確な前位置に球を戻す、球のある位置に「出来るだけ近く」、球は元の「現位置に復すること」、球の「現位置に出来る限り近く」、球の位置に「現位置に能ふ限り近い所から」と球の位置について明確に示しました。「赤い毛糸のマーク」の文献調査として1935(昭和10)年以降に発行されたゴルフ書の記事を検索すると、当時、国内には東西のゴルフ事情を紹介する月刊誌は、関西ゴルフ連盟が発行する『ゴルフイング』と関東ゴルフ連盟が発行する月刊誌『ゴルフ』の2社が担っていました。この「赤い毛糸のマーク」の記事を、他社に先駆けて『ゴルフイング』が継続的に掲載しました。1937(昭和12)年5.6月号の『ゴルフイング』に鳴尾ゴルフ倶楽部(兵庫県)はローカル・ルールを適用して「ラウンドの進行促進と混雑緩和を目的に、球を拾い上げる通達を出しました。これに合わせて関西の広野、宝塚、淀川、信夫山の各ゴルフ倶楽部もローカル・ルール規定で「グリーン上の球を拾い上げ球の清拭を可能」とする略述した記事が取り上げられました。ボールを拾い上げた際に、目印として赤い毛糸を使ったようです。このことから今回の調査結果についても、「赤い毛糸のマーク」を使用していたとされる関西地区のデータが最も多く、関西から東海へと伝達されたと考えられる東海地区でデータが次に多く収集できました。

日本独自の「赤い毛糸のマーク」の貴重な記録を保存するためにどのような方法で使われていたかを、調査をさせていただきます結果をここに報告させていただきます。

## 【方 法】

「赤い毛糸のマーク」を使用したことがある方を対象に以下の質問させていただきました。「赤い毛糸のマーク」を使用していないとされるデータは、除外させていただきました。

回答はそれぞれの設問に対して当てはまる番号に○をつけていただき、( )には、具体的な数値や事柄を記入していただきました。わからない場合は、回答は求めませんでした。

調査年月日 平成 年 月 日

A. 性別 1. 男 2. 女 B. 年齢 ( ) 歳

1. あなたが現在お住いの地域について、お尋ねします。

- ① 北海道 ② 東北 ③ 関東甲信 ④ 北陸 ⑤ 東海 ⑥ 近畿  
⑦ 中国 ⑧ 四国 ⑨ 九州

2. 赤い毛糸のマークを使った当時、あなたの立場について、お尋ねします。

- ① アマチュアゴルファー ② 学生ゴルフ ③ プロフェッショナル

- ④ その他 ( )
3. 初めて、赤い毛糸のマークを使用したのは、どこのゴルフ場で何年頃ですか。  
ゴルフ倶楽部：( ) 昭和：( ) 年頃
- 3-1 赤い毛糸のマークを、どのように呼んでいましたか。  
( ) あるいは ( )
- 3-2 何年頃までこの赤い毛糸のマークを使っていましたか。  
昭和 ( ) 年頃
4. 赤い毛糸をマークに使用することは、誰から聞きましたか。  
① 倶楽部 ② ゴルフ仲間 ③ 親・兄弟 ④ 書籍 ⑤ その他 ( )
- 4-1 毛糸に代わるマークを使っていましたか。どのようなものを使っていましたか。  
( )
5. 初めて赤い毛糸のマークを使った時の感想を教えてください。  
① 神経を使った ② 違和感はなかった ③ その他 ( )
- 5-1 ボールの置き場所と、マークの「位置が違う」と指摘された事がありますか。  
① 倶楽部の先輩から ② 知人・友人から ③ 競技者から ④ キャディから  
⑤ その他 ( )
- 5-2 赤い毛糸のマークに関するルールはありましたか。  
① あった ( ) ② ない
6. ゴルフ場の箱や自宅から持参の毛糸は、主に着衣のどこに入れていましたか。  
① 袖の折り返し ② ズボンのすその折り返し ③ ズボンのポケット  
④ 手袋 ⑤ その他 ( )
- 6-1 夏服で毛糸は、着衣のどこに入れていましたか。  
① ズボンのすその折り返し ② 手袋 ③ ズボンのポケット  
④ 帽子 ⑤ その他 ( )
- 6-2 降雨の時、毛糸は着衣のどこに入れていましたか。  
① ズボンのすその折り返し ② 手袋 ③ 雨具の中 ④ 帽子  
⑤ その他 ( )
- 6-3 風の強い時、毛糸は着衣のどこに入れましたか。  
① ズボンのすその折り返し ② 手袋 ③ ズボンのポケット  
④ 帽子 ⑤ その他 ( )
7. プレー中に、毛糸のマークを紛失したことがありますか。  
① ある ② ない ③ その他 ( )
- 7-1 同伴者の競合を避け、毛糸の色を変えたことがありますか。  
① ある ( ) 色 ② ない
8. 視覚異常の方から赤い毛糸のマークを見失った、と聞かれたことはありますか。  
① ある ② ない ③ その他 ( )
9. 毛糸のマークの紛失や忘れた場合、周りの松葉、木の小枝、ティなどを使ったことはありますか。ある場合はどのようなものを使いましたか。  
① ある ( ) ② ない
10. 球を拾い上げる際、球のどの位置に赤い毛糸のマークを置きましたか。  
① 球の前 ② 球の真後ろ ③ 球の右横 ④ 球の左横  
○をボールに例えて右の線で位置を図に示してください  
↑正面  
球○ — (赤い毛糸のマーク)



ゴルフ場従業員、アルバイトという回答がありました。表2 赤い毛糸を使用したゴルフ場

「赤い毛糸のマーク」をどこのゴルフ場で使用したかについて表2に示しました。愛知県にある森林公園ゴルフ場とする回答が15名でもっとも多くなっていました。森林公園ゴルフ場は1955年(昭和30年)12月、当時の愛知県知事・桑原幹根氏の始球によって誕生しました。昭和30年当初、愛知県内にはメンバーシップの「名古屋ゴルフ倶楽部和合コース」と「愛知カンツリー倶楽部」の2カ所しかありませんでした。また公営パブリックゴルフ場としてオープンしたのは全国でも2番目ということもあり、森林公園ゴルフ場のオープンには大きな期待が寄せられました。次に挙げられたのは兵庫県の仁川ゴルフ倶楽部で、昭和26年に阪神競馬場のダートと外周にレイアウトされたショートコースでしたが、現在は閉鎖されています。第3位に挙げられた宝塚ゴルフ倶楽部は大正15年に3ホールズ開場し、昭和5年に18ホールズ完成し開場した歴史のある倶楽部です。また、4位に挙げられた廣野ゴルフ倶楽部は、昭和6年に神戸財界の数人のリーダーが中心になって造成工事に着手し、翌昭和7年6月19日に開場いたしました。回答数が2以上については所在県を示しましたが、回答数が1については、ゴルフ場名のみを挙げました。ゴルフ場名の回答数は135挙げられましたが、どこのゴルフ場であったか忘れたとか、名前が思い出せないという回答も26挙げられました。

日本で最初に誕生したゴルフ場は、兵庫県の「神戸ゴルフ倶楽部」で今から遡ること110年、明治36年に、神戸の六甲山にA・H・グループ(英国)によって造られました。2番目に出来たゴルフ場は、明治37年神戸市東灘区魚崎町横屋の「横屋ゴルフアソシエーション」に造られた6ホールです。3番目に出来たゴルフ場は、明治39年横浜市本牧・根岸競馬場内に造られた9ホールですが、2,3番目にできたゴルフ場のいずれも現存していません。

表3には、「赤い毛糸のマーク」を使用した年度と何年ごろまで使用していたかについて示しました。使用していた年は、平均年が昭和41.2年でした。いつ頃まで使用していたかについては、昭和47.6年でした。

図3には「赤い毛糸のマーク」をどのように呼んでいたかについて回答数を示しました。最も多い回答がマークで75あり、全体の46.6%でした。次に、毛糸、毛糸のマーク、赤い毛糸マーク、となっていました。ホールマークやボールマーク、グリーンマーク、目印という呼び方もありました。また、忘れたという回答も43あり、全体

ゴルフ場名	所在県	度数	パーセント
森林公園ゴルフ場	愛知県	15	9.3
仁川ゴルフ倶楽部	兵庫県	11	6.8
宝塚ゴルフ倶楽部	兵庫県	9	5.6
廣野ゴルフ倶楽部	兵庫県	7	4.3
さなげカントリークラブ	愛知県	5	3.1
品野台カントリークラブ	愛知県	4	2.5
鳴尾ゴルフ倶楽部	兵庫県	4	2.5
呉羽カントリークラブ	富山県	3	1.9
神戸ゴルフ倶楽部	兵庫県	3	1.9
東名古屋カントリークラブ	愛知県	3	1.9
名古屋ゴルフ倶楽部和合コース	愛知県	3	1.9
三好カントリークラブ	愛知県	3	1.9
愛知カンツリー倶楽部	愛知県	2	1.2
京都ゴルフ倶楽部	京都府	2	1.2
芸南カントリークラブ	広島県	2	1.2
小野ゴルフクラブ	兵庫県	2	1.2
西宮カントリー倶楽部	兵庫県	2	1.2
川奈ホテルゴルフコース	静岡県	2	1.2
太田川ゴルフ倶楽部	広島県	2	1.2
田辺カントリー倶楽部	兵庫県	2	1.2
豊田カントリー倶楽部	愛知県	2	1.2
明石ゴルフ倶楽部	兵庫県	2	1.2
フェニックスカントリークラブ、旭国際宝塚カンツリー倶楽部、芦屋カンツリー倶楽部、伊豆にらやまカントリークラブ、茨木カントリー倶楽部、加古川ゴルフ倶楽部、花屋敷ゴルフ倶楽部、海見山カントリークラブ、額田ゴルフ倶楽部、茅ヶ崎ゴルフ倶楽部、旧中島飛行場ゴルフクラブ、古賀ゴルフ・クラブ、戸塚カントリー倶楽部、呉カントリークラブ、広島ゴルフ倶楽部鈴が峰コース、甲賀カントリー倶楽部、三田ゴルフクラブ、周南カントリー倶楽部、春日井カントリークラブ、小金井カントリー倶楽部、城陽カントリー倶楽部、新奈良ゴルフ倶楽部、神有カントリー倶楽部、垂水ゴルフ倶楽部、千葉カントリークラブ、太田双葉カントリークラブ、淡路カントリー倶楽部、知多カントリー倶楽部、中ノ関ゴルフ倶楽部、中部国際ゴルフクラブ、唐沢ゴルフ倶楽部、東雲ゴルフクラブ、東京ゴルフ倶楽部、東城陽ゴルフ倶楽部、徳島カントリー倶楽部月の宮コース、奈良パブリックゴルフ場、飛鳥カンツリー倶楽部、琵琶湖カントリー倶楽部、姫路書写ハートゴルフクラブ、表蔵王国際ゴルフクラブ、布引カントリークラブゴルフ場、宝塚クラシックゴルフ倶楽部、牧野ゴルフ倶楽部、明智ゴルフ倶楽部、有馬カンツリー倶楽部		1	6
その他忘れた		26	17.4

表3 赤い毛糸を使用した年と使用していた年

	赤い毛糸を使用した年度(年)	何年頃まで使用していたか(年)
データ数	148	119
平均年(昭和)	41.2	47.6
標準偏差	7.88	6.24

の26.1%に登りました。

図4には「赤い毛糸のマーク」を使用することを誰から聞きましたかについて示しました。多い回答は「倶楽部」が38.5%、「ゴルフ仲間」が35.9%でした。次に、「親・兄弟」で14.8%、「その他」が10.6%でした。その他の回答の中にはキャディ、先輩、プロゴルファーという回答がありました。「書籍」という回答は、ありませんでした。このことから文献として赤い毛糸のマークに関する資料がないことが窺われます。

毛糸に代わるマークを使っていたか。どのようなものを使っていたか。という質問に対して、記述された回答は、10円硬貨、5円玉、コイン、チョーク、プラスチック、ペニーのコイン、ボールマーク、ボタン、アルミのメタル、くしゃくしゃと丸めて置いた、マーカー、押しピン・パットのグリップ、外国コイン、硬貨、糸くず、木の小枝、ゴミ、木製・竹製・釘、U S A 25¢ コイン、\$ コインという回答が見られました。

図5には、初めて「赤い毛糸のマーク」を使用した時の感想を示しました。「違和感は無かった」という回答が58.4%で大半を示しました。「神経を使った」という回答は15.5%でした。忘れたという回答も15.5%ありました。その他は10.6%ありましたが、その中には、これがマークだと思った、キャディからマークの位置が違うと指摘、コインの方が使いやすい、これがマークと思いき感想は無かった、プレーが早かった、皆使っていたから、強風の時動いた、教えられながら理解もなく、

軽いので上手くできなかった、動かないか心配、風があるときは飛んでいってしまう、風で吹き飛ばされるようになり神経を使った、毛糸が風で動くという記述がありました。

ボールの置き場所とマークの位置が違うと指摘されたことがありますかに対する回答は、クラブの先輩からが6名、知人・友人からが12名、競技者からが10名、キャディからが7名の回答がありました。大半の78%は「その他」「ない」と回答していました。そして、「赤い毛糸のマーク」に関するルールはありましたかに対する回答は、大半氏の72.7%が「ない」と回答していました。

図6には、ゴルフ場の箱や自宅から持参の赤い毛糸は

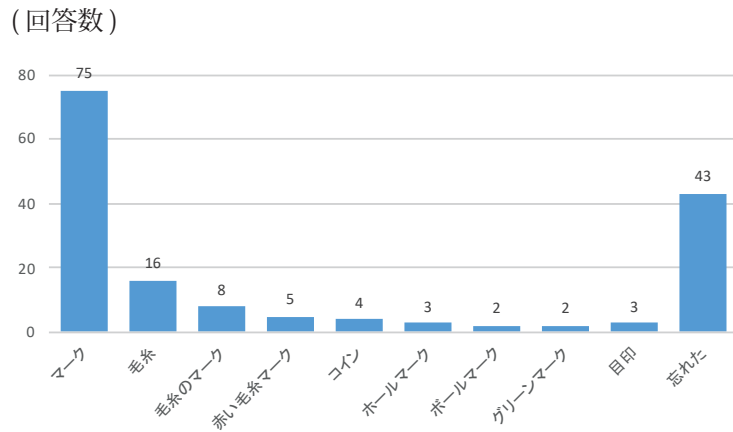


図3 赤い毛糸をどのように呼んでいましたか

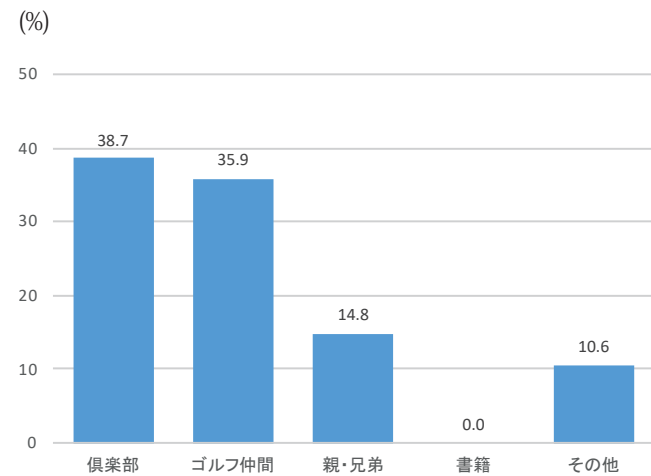


図4 赤い毛糸を使用することは誰から聞きましたか

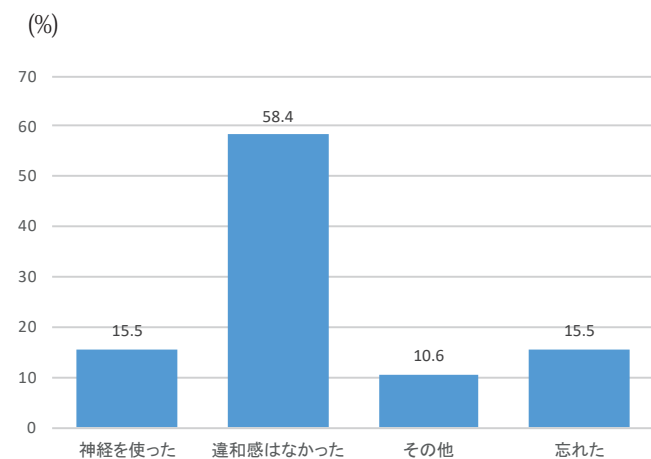


図5 赤い毛糸を使用した時の感想

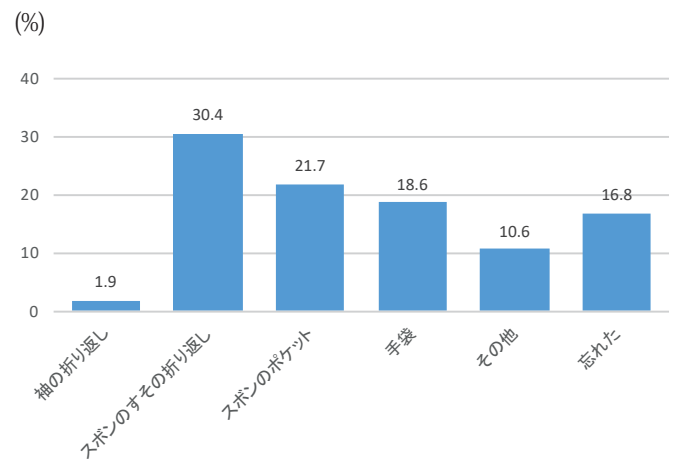


図6 赤い毛糸を主に着衣のどこに入れていましたか

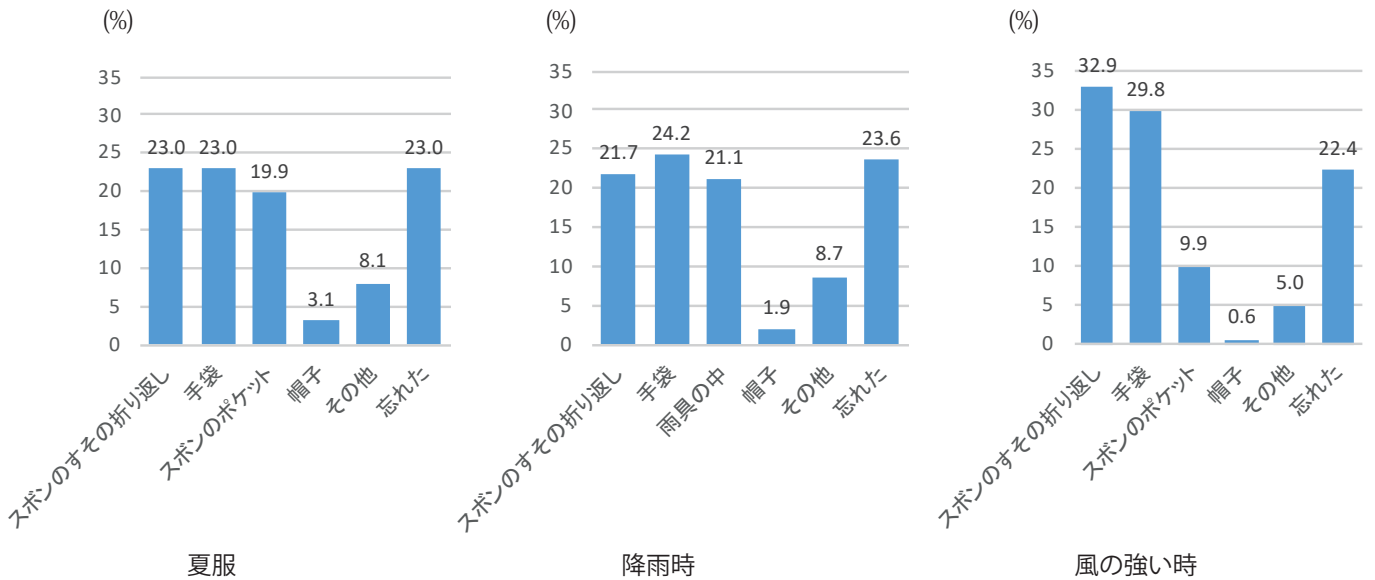


図7 夏服、降雨時、風が強い時の赤い毛糸を着衣のどこに入れていましたか

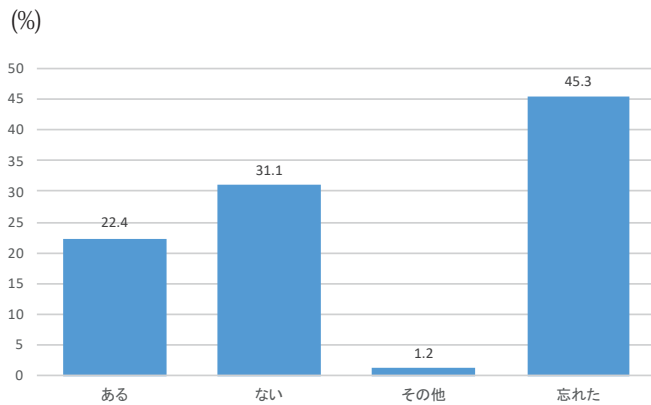


図8 プレー中に赤い毛糸を紛失したことがありますか

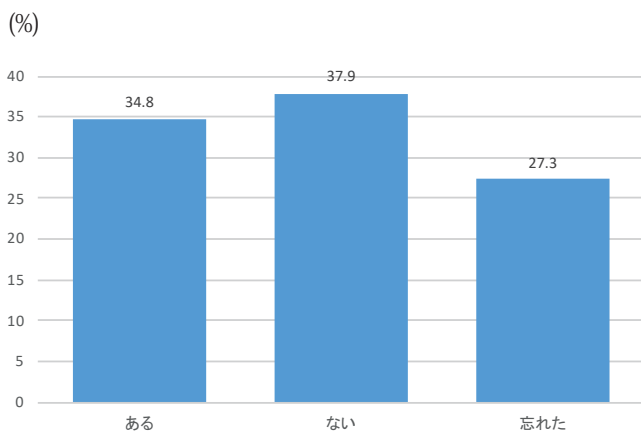


図9 赤い毛糸を紛失したり忘れた場合、周りの松葉、木の小枝、ティなどを使ったことがありますか

主に着衣のどこに入れていましたかという質問に対する回答を示した。最も多い回答は「ズボンのすその折り返し」で30.4%でした。次には、「ズボンのポケット」21.7%、「手袋」19.3%となっていました。「その他」の回答では、シャツのポケット、スパイクの砂よけ、キャディ、靴のひもに差し込む、帽子のひも下という記述が見られました。

図7には夏服、降雨時、強い風の時に赤い毛糸は着衣のどこに入れていましたかについて示しました。夏服の時は、「ズボンのすその折り返し」「手袋」が23.0%で多くなっていました。次に「ズボンのポケット」が19.9%となっていました。降雨時は「手袋」が24.2%で多くなっていました。そして、「ズボンのすその折り返し」21.7%、「雨具の中」が21.1%でした。風の強い時は、「ズボンのすその折り返し」が32.9%で多くなっていました。そして、「手袋」29.8%で多くなっていました。当時のゴルフズボンはすそがダブルになっており、その折り返しに赤い毛糸を入れていたようです。また、ズボンのすその近くに毛糸を入れるための小さなポケットがついていたものもあったそうです。毛糸のマークを使う為にはズボンのすその折り返しがないシングルの場合には不便であったようです。また、降雨時には手袋という回答が多くなっていましたが、毛糸は、手袋のマジックテープにたやすくくっついたことと思います。夏服、

降雨時、風の強い時のいずれも高齢者の調査であることから忘れたという回答が多くなっていました。

図8には、プレー中に「赤い毛糸のマーク」を紛失したことがあるかについて示しました。「ある」という回答が22.4%、「ない」という回答が31.1%ありました。「忘れた」という回答が約半数を占めていました。

同伴者の強豪を避け、毛糸の色を変えたことがありますかについては、「ある」とした回答は15名で9.3%あり、その色は黄色、白という回答でした。毛糸を使用していた当時は、大半が赤い毛糸であったようです。

視覚異常の方から「赤い毛糸のマーク」を見失ったと聞かれたことがありますかについては、約10%が「ある」と回答していましたが、大半は「ない」および「その他」のわからないという回答でした。

図9には、赤い毛糸を紛失したり忘れた場合、周りの松葉、木の小枝、ティなどを使ったことがありますかについて示しました。「ない」という回答が37.9%、「ある」という回答が34.8%、という結果でした。使用したものについては、ティが最も多く、次にコイン、松葉が挙げられていました。その他、松ぼっくり、グリーン上のゴミ、木の小枝、ボタン、草も挙げられていました。

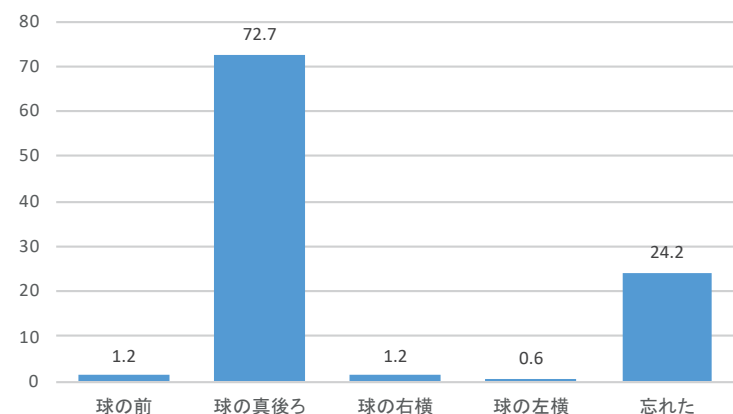


図10 球を拾い上げる際、球のどの位置に赤い毛糸のマークを置きましたか

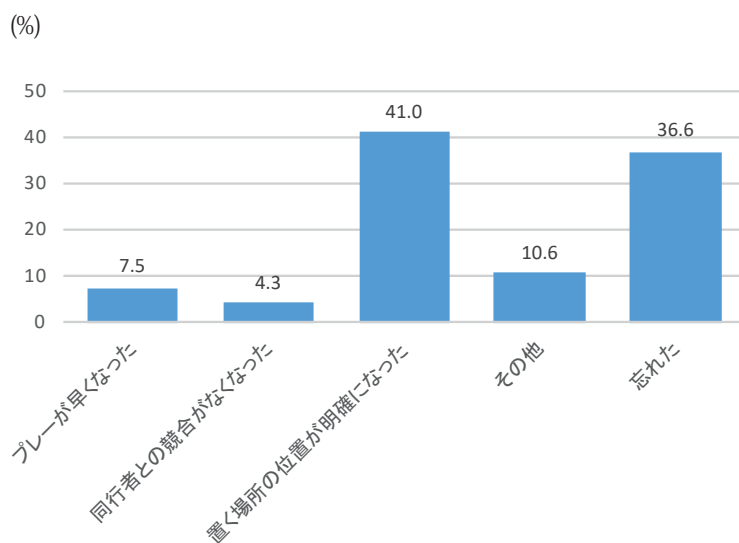


図11 赤い毛糸のマークの効用について

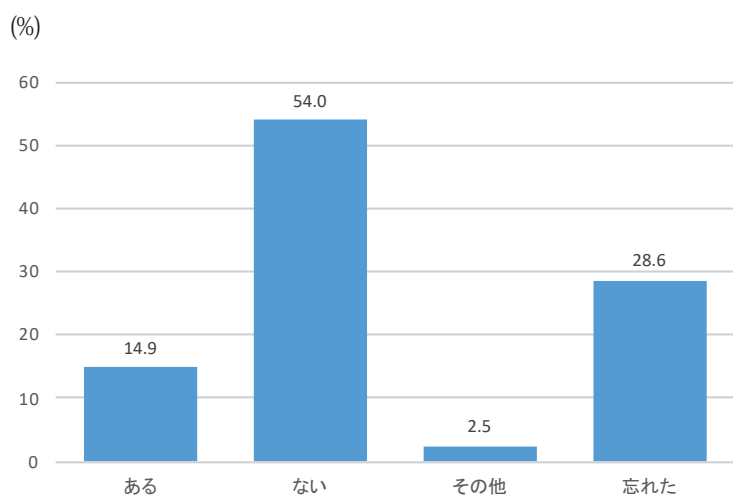


図12 赤い毛糸のマークについて特別の思い出はありますか

図10には、球を拾い上げる際、球のどの位置に「赤い毛糸のマーク」を置きましたかについては示しました。「球の真後ろ」という回答が約72.7%で最も高くなっていました。「球の前」、「球の右横」、「球の左横」という回答も僅かですがありました。また、忘れたという回答も24.2%見られました。

図11には、「赤い毛糸のマーク」の効用について示しました。「置く場所の位置が明確になった」という回答が41%で最も高くなっていました。「プレーが早くなった」が7.5%、「同行者との競合がなくなった」が4.3%でした。「その他」という回答が10.6%の17回答ありましたが、ゴルフをはじめて浅くOKがありあまり使用していない、マークを探すのに大変であった、軽量、質問の意味が分かり難い、マークする事は同伴競技者とのボールの接触を回避する為であり、質問はマークの効用の意味を問うものでないように思う、邪魔にならないのでOK、風で動くので気を使った、球の邪魔にならないのでよかった、という記述が見られました。忘れたという回答は36.6%と高くなっていました。

赤い毛糸をマークした状態で、パッティングをしたことがありますかについては、65.8%は「ない」と回答していましたが、「ある」と回答したのは5.6%ありましたが、そのうちペナルティーがあったとする回答は30%、ペナルティーはなかったとする回答は70%でした。

図12には「赤い毛糸のマーク」について特別の思い出はありますかについて示しました。「ない」とする回答が54%、「ある」する回答が15%でした。あるとする回答には以下のようなことが記述されていました。

コイン等の方が良い、プレーが早くなった、へにゃへにゃ動いた、マークした位置に、同色の他のマークが重なり間違った、雨の時は靴につかないように注意した、懐かしい思い出である、外国の事は知らないが日本では蚕業の盛んな頃、毛糸の切れ端を使えと東京

の人から聞いている、嬉しかった、強風で飛ばされた、思い出はたくさんある、不明なものでした、父の思い出となっています、風でよく飛ぶので注意した、風に弱いこと、忘れかけていた思い出がよみがえった、面白い習慣だと思った、毛糸なので他のプレーヤーのライン上でもプレーの支障にならなかった、落とした時、別のマークを探すのに大変だった、強風で吹き飛ばされた。

などの赤い毛糸の思い出として記述されていました。

最後に「赤い毛糸のマーク」は誰が考案して、推奨されたのか、ご存知ですかという質問に対しては、残念ながら有用な回答を得ることができなかった。大半が知らないという回答であった。記述内容を以下に示します。

キャディーさんが使い始めたと思います

ゴルフ場にあった。

倶楽部開場 28 年のクラブが使用していた。

この調査を通して、いろいろな意見や情報をいただきました。以下に示します。

スポンのすその近くに毛糸を入れるための小さなポケットがついていたものもあった。

マークした位置を同色のために間違ったことがある。

同伴競技者が赤のマークを取らず、他の同伴競技者に一部の取り忘れを指摘され目標を作ったとされて罰打 2 点を付加された。

毛糸のマークを使う為にはズボンのすその折り返しがないシングルの場合は不便であった。

毛糸なので他のプレーヤーのライン上でもプレーの支障にならなかった。

キャディーさんがポケットの中に毛糸のマークを入れていた。自分はゴルフ場のプラスチックのマークを使用した。

グリーンで毛糸の切れ端のようなものを使っていた人もいた記憶でしたが、私は使用した経験少ないです。

貝やボタンを使っていた。ボタンを常に用意していた。

現在と同様にグリーン上のマナーはあった。

初めた頃のゴルフをなつかしく思い出しました。

他人がボール位置を間違えたことがあった。

男子プロゴルファーの試合を見て同じ赤い毛糸のマークを使っていた。中村寅吉プロ等。プロゴルファーの試合で靴底にくっついたことを見た。

当時のキャディーさんが芝を傷つけることなく上手にひっかけ風に飛ばされないように置いていたのは、今考えると名人芸とも思える。自分ではうまくできませんでした。

毛糸は芝に良くくっつくなと思った。

落とした時、別のマークを探すのに大変だった。

強風で吹き飛ばされた。

## 【終わりに】

赤い毛糸のマークに関する調査をさせていただきました。今回は、初めての調査であり、質問項目も回答しづらい箇所が、多々ありました。また、郵送方式で行ったものや、直接対面方式で行った調査も含まれています。対面方式で行った調査は、全て回答をいただくことができましたが、郵送方式で行なった調査は、無回答や意味不明の箇所が見られました。そのため、回答数や回答箇所にはばらつきが出てしまいました。

このような赤い毛糸のマークに関する調査は初めてされたものと思います。皆様から貴重な資料の提供をいただいたことに感謝いたします。

この調査にご協力いただきありがとうございました。